

中野渡氏が再選

十和田市長選

畑山氏を破る



任期満了に伴う十和田市長選は七日投票が行われ、現職の中野渡春雄氏(64)が、無所属、自民、公明推薦が、新人で前市議会副議長の畑山親弘氏(57)を無所属、連合、社民、民主推薦を破り、再選を果たした。市内政財界を従え、圧倒的な組織づくり

に成功した中野渡氏は、現職の強みを生かして国政や県政とのパイプを強調。有権者から広い支持を得た。中野渡氏は二月の市議有志の会合で出馬の意思を示し、三月定例会で正式に立候補を表明した。当初から江渡聡徳元代

議士、丸井彪県議、田中順造県議という自民党の市内三大派閥がバックを固め、選挙戦の「本命」と見なされてきた。

自民以外からも県民協会の一部勢力が陣営に合流したことで、市議二十四人のうち十五人が結束。市内の大手・中堅建設業者の支持も取り付けるなど、組織力をフルに生かして安定した選挙戦を展開した。

一方の畑山氏は、勝手連として活動する市民団体「十和田いきき市民会議」と野党市議に擁立され、五月に出馬表明。選挙戦では市議八人のほか、民主党県連の戸来勉代表、次期県議選への出馬をうかがう中村友信元市議らが応援した。「一部有力者が主導権を握った市政を、市民の手に取り戻そう」と訴え、現職批判票や浮動票の掘り起こしに努めたが、思うように支持を得られなかった。

詳細は朝刊で